

学校だより

# いしづえ

甲斐市立双葉東小学校

平成20年5月30日号

## 機関車学年の修学旅行！

校長 中 千博

5月21日(水)多くの保護者や先生方に見送られ、双葉東小学校修学旅行団は6時30分に学校を出発した。1日目の1号車は1組だった。私は常に1号車に乗ることになっていたの、各クラスの児童の名前と学級の様子分かるこのローテーション方式のシステムは有り難かった。そして予定より若干遅れの10時40分に鎌倉大仏で有名な高徳院に到着した。子ども達は大仏に驚くと思ひこんでいた私はいささか拍子抜けした。私が小学校の修学旅行で初めて鎌倉の大仏を見た時、世の中にこんな大きな仏像があるのかと信じられない思いがあった。中学3年の修学旅行で奈良の大仏を見た時は又違う驚きを感じたのを覚えている。自分の力で鎌倉・奈良の旅に出かけるようになった時、その驚きがどこから来ているのかやっと理解できるようになったものだ。だからもっと感動して欲しかったが、やはり情報量の違いなのかと添乗員さんと話した。



間もなく子ども達は3つのコースに分かれグループ見学に出発して行き、先生方もチェック場所へ向かった。今度の修学旅行で最も団長として心配する場面でもある。私も役割の場所へ行き、その後堀之内先生と合流し長谷寺駅からこれも久々の江ノ電に乗り最終チェック場所である鶴ヶ岡八幡宮を目指した。太鼓橋前で最終チェックを行ったが、グループごと到着するため最初と最後のグループでは約1時間の差がでた。しかもクラスによっては集合時間を守れなかった班も出たため、各担任の目は一層狐目になり、厳しい指導も入った。私はその光景を笑顔で見つめることが出来た。全員無事が全てなのである。

そして15時20分に鎌倉を立ち、1日目の宿舎である三浦半島にある『観潮荘』に16:30分に到着した。入室し着替えを行い油壺海岸散策を行った。海岸には3名の若者以外誰も居ず双葉東小学校の独占状態であった。風間主任が海を背に子ども達の前に立つ。主任の足下に太平洋の波がやさしくふれ、日没を背にした光景である。まさに絵になっている。どこかで見た光景だ。こんな時は不思議と静寂が訪れるものだ。「みんな目を閉じて!・・・これが海の声だよ・・・これが地球が生きている音だよ。いつまでも聞いていたいね。だからいつまでも大切にしたいね。決して海を汚してはいけないね・・・」私は感動した。鳥肌が立った。風間先生は詩人だったのだ。

その後海に入り観潮荘に戻った。保護者の皆さんにもこの観潮荘をおすすめしたい。なんと『深海層海水温泉』である。海が眺められる部屋。料理も良い。地域は比較的寂れているぶん、穴場かもしれない。修学旅行でこのような施設に泊まれるとは思わなかった。そしてその晩は1日目の疲れも何のその。子ども達はおいしい食事と広い温泉施設で疲れを癒し、修学旅行の興奮に浸っていた。消灯時間を過ぎ指導を何度も受けた部屋もあった。そして朝は、4時30分ぐらいの日の出を眺めた部屋もあったと聞く。子どものパワーのすごさを改めて感じた。

2日目は6時30分起床、バスは8時東京湾埋め立て地に立てたJFE製鉄所(日本鋼管と川崎製鉄の合併会社)に向けて出発した。その日1号車は2組であった。朝のあいさつ後、昨日から耳にこびりついている歌「羞恥心」から始まったのには驚いたが、曲だけで子ども達の声は聞こえてこなかった。到着の9時30分まで、レク係の呼びかけにもあまり応えずほとんどの子どもが昨夜の疲れを癒したようである。そしてJFE製鉄所に到着。バスの中からも見渡せないほどのその敷地の広さと工場群には度肝

を抜かれた。ヘルメットをかぶり軍手をはめ敷地内を目的の圧延工場までバスで移動した。子ども達の日も輝きを増してきた。車窓から見た溶鉱炉棟はまさに映画『ハウルの動く城』そのものであった。宮崎駿はこれを何度も観察し映画を作ったに違いないと勝手に想像した。工場では真っ赤な正方形の鉄が『一反木綿』以上の長さに変化して行く様を歩きながら観察した。1200℃以上に熱せられた花火の固まりのような鉄が、レール上を行き来するたびにその熱さが皮膚に伝わり、ぶつかり合う大きな金属音、そして水が花火の固まりにかけられるときに発する水蒸気とその時発する轟音、まさに五感を揺さぶるものであった。子ども達はこの時『八景島シーパラダイス』が完全に飛んでしまうほどこの工程に見入っていた。その後の会議室での質問にそのことが表れていた。中心になって説明をしていただいた職員の高橋さんも、多くの質問の中で3つほど答えられず「・・・ごめんなさい勉強しておきます。」と言う場面もあった。高橋さんは「この学校の生徒さんは実に着眼点が素晴らしい。こちらが勉強になりました。」と語っていた。団長として胸の張れる瞬間であった。



そして、いよいよ子ども達がこの修学旅行で一番楽しみにしていた(たぶんいや間違いなく)八景島シーパラダイスに12時40分頃到着した。多くの子ども達の日が水族館の魚たち以上に泳いでいるのが分かった。班行動で、昼食から水族館・イルカのショー・乗り物・買い物を計画的に行った。多くの班が写真を撮るのを忘れるほど精力的に動き回っていた。そしてこの修学旅行で写真係を中心に担っている内藤先生も、生徒の動きに引けをとらないほど俊敏さを発揮し、生徒とともに動き回っていた。会場で出会う度の先生の日が印象的であった。そして集合の16時40分になった。出発式から、始めて時間内に集合できた時である。その日の指揮係である2組の浅川先生は5分前行動を子ども達に訴えていただけに、ほめてはいたが決して満足そうな表情は見せなかった。しかし、子ども達は時間を追うごとに成長していることは確実であった。

シーパラダイスに大きな未練を残しながらバスは首都東京に入り、18時に「ホテルゆうぼうと」に到着した。元郵政省関係職員のホテルだけあってその立派な構造から醸し出す雰囲気の中で思わず修学旅行団ということのを忘れそうになった。1日目とは打って変わり、夕食後22時消灯であったが、疲れもピークに達したようで、どの部屋も就寝・就寝・就寝であった。

3日目最終日は6時起床、6時50分8階に下りて荷物を預け、バイキング形式で朝食をとった。私を含め7人の引率教師であったがこの時ばかりは全く人手が不足した。添乗員さんも横っ飛びであった。何とか8時にはホテルを出発し国立科学博物館へ向かった。地球・日本の過去現在の姿を学習し国会議事堂・東京タワーを見学し15時20分には東京を発ち、一路山梨を目指した。そして多くの保護者・教職員の待つ双葉東小学校に到着したのは18時前の予定通りであった。ちなみにこの日の1号車は3組であった。全体指揮係は3組担任の入野野先生で、3日目の子ども達の成長を裏付けるように、どの集合場所に行っても5分前行動が徹底できた。どの集合場所でも入野野先生のほめことばから始まり、行動が開始され、3日間の快晴を象徴するような雰囲気であった。

紙面の関係上3日目の解説が少なくなってしまうが、多くの感動を生み出してくれた2泊3日の修学旅行であった。無事帰って来られたのも主任(1組担任)風間先生、2組浅川先生、3組入野野先生の日頃のきめ細かな指導と、様々なことの指導に当たってくれた水上・内藤先生、保健救護を担ってくれた堀之内先生、そして添乗員の久保島・野口さんのおかげと思っている。

子ども達はまさに『五感と五体』を使って修学旅行を終えた。一生の宝となることは間違いない。そして、私は3日間3クラスと付き合いそれぞれの色を感じた。



車内ではみんなで大きな声で歌える元気な団結の1組、時間を守り一度も全体に迷惑をかけなかった2組、どんな時も一人一人が思いやりのあるやさしい3組。今後それぞれの学級が担任の指導のもと、良い面を全面展開していつてもらいたい。他のクラス・学年に影響を与えていつてもらいたい。6年生がこの修学旅行を契機に、双葉東小学校の機関車学年として一回りも二回りも大きく成長してくれることを確信した。最後になりましたが、温かく見送り・迎えてくれた保護者の皆様と、学校を守ってくれた教職員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。